



小樽商科大学 広報誌 Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ

2010. November

No. 27

特集：
商大に歌い継がれるふたつの歌 …1



▲商大校歌譜面

- 百周年コラム7 3
 - 創立100周年記念事業
 - 百周年記念イベント
 - 「史料展示室オープニングセレモニー」「祝賀ビアパーティ」
 - シニアアカデミー2010
 - 2011年百周年記念カレンダーを作成しました
- TOPICS 5
 - 附属図書館主催イベント
 - 第6弾「カスタンネットの赤と青」(加藤邦彦・小樽市立手宮小学校長)
 - 第7弾「小樽市民と小樽商大」(土橋信男・小樽商科大学監事)
 - Barrel (小樽商科大学学術成果コレクション) 開設3周年記念講演会
 - ピーター・F・ドラッカー著作展示会及び生誕100年記念講演会
 - 商大の味、東京・札幌で大好評
- シリーズ先生紹介第19回 イブラヒム・ファロウク 助教 …6
- INFORMATION7

金鱗おどる渺々のあけぼの称う浪の唄

— 小樽商科大学校歌

琅玕融くる緑丘の春曙を逍遙えば

— 若人逍遙の歌

時雨音羽、杉山長谷夫の有名詩人、作曲家の手になる校歌『金鱗おどる』と、旧制の大学・高校からの「逍遙歌」の伝統を受け継ぐ『若人逍遙の歌』。いずれも古い歴史をもち、入学式や卒業式など、さまざまな機会に今も学生らによって歌われる小樽商科大学の歌である。それではこのふたつの歌がどのような経緯で誕生したか、ということになると、知っている人はあまり多くないだろう。小樽商大創立百周年が来年となった今、そのことを振り返ってみるのも悪くないのではないだろうか。

校歌について

小樽商科大学の校歌は、もともと、昭和7(1932)年2月に発表された小樽高等商業学校の校歌であったものである。つまり、小樽商大の校歌の歴史はそのまま小樽高商の校歌の歴史である。

校歌制定前年の昭和6(1931)年は「小樽高商創基二十周年記念」の年にあたり、昭和7年卒業生に記念品として約70円でネクタイピンを贈るという案が出されていた[当時の大学卒の初任給は70~90円程度だった]。しかし、学生たちの多くは「ネクタイピンよりも校歌が欲しい」という希望を持っていた。そこで、学生たちは、のちに小樽高商の校長となった苦米地英俊教授らに交渉

寄稿

小樽商科大学校歌

時雨音羽 作詞
杉山長谷夫 作曲

- | | |
|---|--|
| <p>(一)</p> <p>金鱗おどる渺々の
あけぼの称う浪の唄
エルムの花に若人の
涯なきのぞみ数々秘めて
夢うるわしの緑ヶ丘よ</p> | <p>(二)</p> <p>夕陽映える白樺の
梢をわたる風の唄
慈愛の山のふところに
銀翼みがき駿足秘めて
唄ほがらかの緑ヶ丘よ</p> |
| <p>(三)</p> <p>蒼穹ははず道つきず
はるかに仰ぐ北斗星
栄冠迎うこの胸に
飛躍の力ひととき秘めて
花咲き匂う緑ヶ丘よ</p> | <p>(四)</p> <p>健腕拓く五大洲
凱歌はあが我母校
感激満てる若人の
血潮に清き教えを秘めて
春永遠の緑ヶ丘よ</p> |

校歌から受け取るモノ

小樽商科大学1年 美田 恭平

私は今年この大学に入学し、今は高校から始めた合唱を続け本校のグリークラブに所属している一年生です。校歌はグリークラブの練習で最初に歌った歌で、初めて楽譜を見たときに頭に浮かんできたのは「壮大」、「希望」という言葉でした。全体的にゆったりとしたテンポで、さらに小節をまたがるほど長い音符が、この歌の壮大さをとてもよく表現していると思いました。また、歌詞にある「涯なきのぞみ」、「飛躍の力」などと言う言葉から、当時の学生達が胸に将来への希望を抱き、日々学友たちと切磋琢磨しながら自身を高めていく姿が浮かんできました。

私自身もこの校歌のように、広く大きな心を持ち、一回りも二回りも大きな人間になってこの大学を卒業したい。そんな思いを抱かせてくれるととてもいい校歌だと思います。



▲今年6月の市民合唱祭で。左から5人目が美田君

若人逍遙の歌について

一方、今も入学式や卒業式に校歌と並んで歌われる小樽商科大学の『若人逍遙の歌』。その作詞・作曲のいきさつはどのようなものであろうか。この歌の作詞者は昭和30(1955)年に札幌地検小樽支部長として着任した高島茂氏である。なぜ、高島氏が商大の逍遙歌を作詞することになったのか。関係者の語るところによれば、そのきっかけを作ったのは、高島氏の部下で、昭和16(1941)年に小樽高商を卒業した森保氏である。森氏は、同じ札幌地検小樽支部の検事で、両氏は上司・部下の関係を超えて親交を結んだ。そうしたなかで、森氏が高島氏に小樽商大にそれまであった逍遙歌のことを話したところ、高島氏は「自分も小樽商大の逍遙歌を作詞したい」との希望を語った。そして、1箇月も経つころには高島氏による逍遙歌の歌詞のおおよそは出来上がった。歌詞第一番冒頭、早春の雪どけを歌う「琅玕融くる緑丘の」は、とりわけ両氏ともに気に入るところであったという。[琅玕とは暗緑色ない青碧色の半透明の硬玉で、美しいもののたとえ。]

この歌詞が小樽商大に献呈されて、応援歌扱いとして曲を付けることになり、昭和32(1957)年5月25日付け『緑丘新聞』において作曲を募集した。ライバル北海道大学の寮歌・応援歌

した。はじめは賛成でなかった苫米地教授も、学生たちの説得を受けて校歌の件を承諾したという。さっそく学生代表の一人が自ら親交のあった詩人・時雨音羽氏に作詞を依頼した。時雨氏の快諾を受け、今度は曲を公募しようということになった。しかし、よい曲は集まらず、結局、作曲家の杉山長谷夫氏に依頼することになった。作詞・作曲あわせての謝礼金はネクタイピンの場合と同じ70円であったという。

時雨音羽氏は『出船の港』(歌い出しは「どーんとどんとどんと波乗り越えて…」)で知られた詩人である。道北・利尻島の網元の家に生まれた時雨氏が、鯉漁^{にしん}の盛んな当時の小樽の光景を見て、小樽高商(そして小樽商大)の校歌の歌い出しを「金鱗^{びょうびょう}踊る渺々^たの あけぼの^{にしん}の^た称う浪の唄…」としたのもうなずける。校歌はこのあと、高商周辺の自然を詠み込みつつ、「夢うるわしの緑ヶ丘よ」「唄ほがらかの緑ヶ丘よ」「花咲き匂う緑ヶ丘よ」「春永遠^{とこしえ}の緑ヶ丘よ」と歌い上げる。

かたや校歌作曲者の杉山長谷夫氏は、『出船』(「今宵出船^{きんらん} かつお名残惜しや…」)、『花嫁人形』(「金欄^{きんらん} 緞子^{どんす}の帯締めながら花嫁^{ごりよう}御寮^{ごりよう}はなぜ泣くのだろう…」)を作曲した人である。これらの歌のメロディーは誰も聞いたことがあるのではないだろうか。彼の作る歌の曲調を思えば、小樽高商(商大)校歌の情緒のゆえんもよく理解できるのである。

若人逍遙の歌

高 島 茂 作詞
宮 内 泰 作曲

(一)

琅^{ろう}玕^{かん}融^とくる緑^{りょく}丘^{きゅう}の 春^{はる}曙^{あけぼの}を逍^{せう}遙^{ぎょう}えば
浪^{なみ}漫^{まん}の露^るに街^{まち}沈^{しず}み 風^{かぜ}悠^{ゆう}久^{きゅう}の言^{こと}葉^はあり
瀾^{らん}染^だの桜^{さくら}花^{はな}吹^ふ雪^{ぶき}つ つ あわだしくも逝^はく春^{はる}の
伝^{でん}統^{とう}古^こき学^{がく}舎^{しゃ}に 展^{ひら}ける海^{うみ}のはてしなき

(二)

夏^{なつ}白^{しら}樺^{かば}に嘯^{ささ}やきて ハイネ^{うた}の詩^{うた}を口^{くち}ずさむ
みめ美^うわしきまなざしの 又^{また}なき時^{とき}の愛^{いと}しき
断^{きり}崖^{きしお}落^{なみ}ちて波^{なみ}くだけ オタモイ^と遠^とく帆^ほ走^{はし}れば
オタル^おの^ね々^々の夕^{ゆふ}あかね 冴^さゆる北^{きた}斗^とにうそぶきぬ

(三)

秋^{あき}簫^{しょう}条^{じょう}の思^{おも}い濃^こき ポプラ^{くも}にかか^かる雲^{くも}消^きえぬ
流^る転^{てん}の行^{ゆき}旅^{じゆめ}夢^にに似^にて 悩^{なや}みの思^し惟^いを誰^{たれ}か知^しる
感^{かん}傷^{しょう}笑^{わら}うことなけれ 桜^{さくら}ヶ丘^{がおか}にたたずみて
泪^{なみだ}滂^{ぼう}沱^たと憂^{うれ}愁^{しゅう}の 落^{おち}葉^はの行^{ゆく}方^{かた} 誓^{ちか}うかな

(四)

氷^{ひょう}雪^{せつ}海^{かい}に傾^{かたむ}きて 月^{つき}寒^{さむ}ければ翻^{ひら}とかん
晦^{かい}冥^{めい}行^{こう}路^ろ遠^とけれど われに港^{みなと}の乙^{おとめ}女^めあり
流^{りゅう}星^{せい}落^おちて影^{かげ}もなし 逝^しく青^{せい}春^{しゅん}の足^{あし}音^{おと}に
生^{いのち}命^{めい}を惜^{おし}む若^わ人^{にん}は 永^{えい}却^{ぎやう}の杯^{はい}酌^{しやく}まんとなす

『都ぞ弥生』に対抗するものとしたいという気概を持って臨んだとのことである。この募集に応じたのが当時小樽商大の学生であった宮内泰氏であり、氏の作品が新逍遙歌の曲として選ばれたのだった。その後この逍遙歌は、応援団や大学寮の学生をはじめとする多くの学生らに歌い継がれて今に至る。

『若人逍遙の歌』は逍遙歌の伝統に沿って、小樽近隣を散策・逍遙する若者の目に映る四季の推移を歌う。春の風景に始まり、「夏白樺に囁^{ささ}やきて…」「秋簫^{しょうじょう}条の思い濃き…」と歌い進め、凍てつく冬で締めくくる。そこには「オタル」「オタモイ」の地名とともに、商大生の学び舎が立つ「緑丘」（緑ヶ丘）が詠み込まれていて、間違いなく小樽商大の逍遙歌となっている。逍遙する若者はもちろん小樽商大の学生である。

寄稿

若人逍遙の歌について

宮内 泰
(昭和33年卒)

先日、商大総務課の女性の方からレターを貰った。用件は私が作曲した『若人逍遙の歌』が今も歌われていることに対する想いを書くようにとの依頼である。

私がこの曲を作ったのは、今から52年前、大学四年の夏休み頃で、何かの記念行事の一環として行われた懸賞募集に応じたもの。友達から借りた北大寮歌集をギターで爪弾き、学生歌のおよその傾向を知り、3曲作って提出した。暫くして、登校の朝、聞き覚えのあるメロディーがグリークラブの合唱で流れているのを聞き、私の曲が採用されたのを知って、喜びより驚きが先に來たのを覚えている。

私の学生時代、北大との対抗戦の応援に出かけ、みんなといろいろな歌をうたった。小樽や札幌駅前に両校の並び立つ対面式、札幌の薄野ロータリーで全員輪になって高唱乱舞した大ストームなど、歌と共に思い出す。

現在、こういった場面などで、『若人逍遙の歌』が歌われているのかと思うと、作曲した本人としては、面映ゆいような、ほんのちょっぴり誇らしいような複雑な気持ちになる。

私の家には、この歌を収めたテープがある、大分前に、妻が私の誕生日のプレゼントとして秘かに用意したものである。

何時か、後輩諸君の「生」の合唱を、それも混声合唱で、聞いてみたいものだと思っている。



創立100周年記念事業

伊藤整文学賞講演会・贈呈式

- 日 時：平成23年6月17日(金)
- 会 場：本学講義室
- 講演会講師／伊藤滋氏（伊藤整氏ご子息）
- 贈呈式／講演会終了後贈呈式

丘美会絵画展（テーマ「私と絵画と小樽」）

- 日 時：平成23年6月21日(火)～26日(日)
- 会 場：札幌／ギャラリー大通美術館
- 日 時：平成23年7月6日(水)～10日(日)
- 会 場：小樽／市立小樽美術館

※本学同窓会員による絵画展

ITサミット2011（IT企業のトップによるパネルディスカッション）

- 日 時：平成23年6月下旬予定
- 会 場：本学講義室

創立百周年記念式典・懇親会

- 日 時：平成23年7月8日(金)
- 式典・懇親会：グラントパーク小樽

緑丘100周年祭

- 日 時：平成23年7月9日(土)、10日(日)
- 会 場：小樽商科大学構内
- 7月 9日(土) 卒業生・企業等の皆さまとのイベント
 - (1) 記念祝賀会
 - (2) ホームカミング(模擬講義・合同部活など)
 - (3) 百周年企画／大園遊会／花火大会
- 7月10日(日) 市民・企業等の皆さまとのイベント
 - (1) 百周年企画／大園遊会

グリークラブ演奏会（本学グリークラブOBによる演奏会）

- 日 時：平成23年7月18日(月)〈海の日〉
- 会 場：小樽市民会館

国際シンポジウム

- 日 時：平成23年8月26日(金)・27日(土)
- 会 場：小樽商科大学及び札幌

音楽祭（市民の皆さまとベートーベンの第九などを楽しむ音楽祭）

- 日 時：平成23年10月10日(月)〈体育の日〉
- 会 場：小樽市民会館

学生寮（輝光寮）の建設

- 竣 工：平成23年2月

創立100周年記念誌（大学史）発行

創立百周年記念募金のお願い

創立百周年記念事業を推進するため、本学は皆様に、その趣旨へご賛同いただくとともに、ご支援ご協力を賜りますよう「小樽商科大学創立百周年記念募金」をお願いしております。その目的は、①新学生寮の建設、②教育研究振興基金（仮称）の創設、③百年史編纂、④記念式典・記念講演・国際シンポジウムの開催、⑤学生企画による記念事業、⑥キャンパス美化等の環境整備事業となります。詳しくは、創立百周年記念事業推進室にお問い合わせ下さい。また、「募金趣意書」や本学HP内の専用ページ等も是非ご覧下さい。

(<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/kihu.htm>)

〔創立百周年記念事業推進室〕

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493
E-mail ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp

百周年記念プレイベント

創立百周年を来年に控えた今年、プレイベントとして、新史料展示室関連事業とシニアアカデミー2010を実施しました。

「史料展示室オープニングセレモニー」「祝賀ビアパーティ」

史料展示室が図書館3階に移転し、去る8月9日(月)、オープニング・セレモニーと見学会が行われました。新しい史料展示室は以前の2倍以上の広さで、商大百年の歴史を、年代毎にまとめた貴重な資料とともに、パネルで展示・解説しています。オープンにあたっては、日本経済新聞社編集局文化部編集委員の松岡資明氏を講師に迎え、「日米密約だけじゃない 国民は知らないことだらけー公文書管理と日本社会」と題する講演会が催され、来賓の方や参加していただいた一般市民の方々が熱心に耳を傾けていました。

また、同日夕刻より、例年この時期に行っている「商大ビアパーティ」を、今年は開室祝賀パーティとして開催し、ジャズ研究会の演奏、よさこいチーム「翔楽舞」の踊り、復活なった応援団の演舞など、種々なアトラクションが続く中、会場に詰めかけた学生、教職員、市民ら約350人は、記録的な猛暑の夏の一夜を大いに楽しみました。



▲テープカットする左から
齊藤緑丘会理事長、山本
学長、和田副学長



▶にぎわうビアパーティ

シニアアカデミー2010

昨年好評をいただいた「シニアアカデミー『小樽商大で学ぶ小樽の歴史・文化・観光』」を、今年も8月31日から4日間の日程で開催しました。これは学習意欲の旺盛な団塊・シニア世代を対象とした体験型生涯学習プログラムで、小樽市との連携事業として企画され、本学の創立百周年事業でもあります。来年の記念イベント「ホームカミング」(卒業生の集い)を見据え、全国の卒業生にも参加を呼びかけたところ、卒業生8名を含む22名の方に受講いただきました。

プログラムは、小樽の歴史、文化、観光に関する講義と、その内容を実地で体験するフィールドワークとからなり、参加された方からは、「今までよく知らなかった小樽の歴史と社会的意義を深く理解することが出来ました」、「内容の濃い4日間で受講して良かったです。小林多喜二に興味を持っていたので、自分の知らない面、人柄にふれました」、「大学の先生、レクチャーしていただいた方々、学生の小樽を活性化したいというエネルギー、意欲が伝わりました」等の感想をいただきました。



▲フィールドワークの様子

2011年百周年記念 カレンダーを作成しました

小樽商大の懐かしい写真や、現在のキャンパス風景を厳選し、カレンダーにまとめました。ご希望の方に無料で配付しておりますので、以下にお問い合せ下さい。

また、年間を通じて開催される記念事業や大学の行事も記載しておりますので、ご参考のうえ、各種イベントにも是非ご参加下さい。



▲雪の旧校舎



表紙 ▲中村善策「緑丘回想」
(小樽商科大学学長室蔵)



2 ▲小樽雪あかりの路
(商大会場)



3 ▲卒業式風景
(平成22年)



4 ▲桜の構内



5 ▲平山幹昌
「回想の学舎」
(小樽商科大学史料展示室蔵)



6 ▲応援団対面式
(平成22年)



7 ▲旧校舎全景
(開校当時)



8 ▲現キャンパス全景



9 ▲秋の地獄坂



10 ▲秋の構内



11 ▲旧図書館風景



12 ▲旧正門風景

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
小樽商科大学総務課総務係
TEL 0134-27-5206、5207 FAX 0134-27-5213
E-mail kouhou@office.otaru-uc.ac.jp

〈附属図書館主催イベント〉

ゆめぼーとライブ

第6弾「カスタネットの赤と青」(加藤邦彦・小樽市立手宮小学校長)

第7弾「小樽市民と小樽商大」(土橋信男・小樽商科大学監事)

市民向け講座「ゆめぼーとライブ」も、6回目、7回目を迎えました。いずれも本学駅前プラザ「ゆめぼーと」にて開催され、第6弾は8月5日(木)午後6時30分から、加藤邦彦氏(手宮小学校長)を講師に迎え、「カスタネットの赤と青」と題し、ジェンダーについて話していただきました。また、11月1日(月)には、本学の土橋信男監事が、「小樽市民と小樽商大」と題し、大学と地域の関わりについて話をしました。質疑応答も活発に行われ、受講者からは「楽しく色々な事を学べました」など、たいへん好評をいただきました。



▲第6弾 加藤邦彦氏



▲第7弾 土橋信男監事

Barrel (小樽商科大学学術成果コレクション) 開設3周年記念講演会

附属図書館では、10月20日(水)午後3時から251講義室にて、今後の学術情報に関する講演会を開催しました。鈴木雅子(北海道大学附属図書館)、アンドリュー・A・アダムス(明治大学ビジネス情報倫理研究所副所長)の両氏は、電子ジャーナルの隆盛等の環境変化を踏まえた、学術成果の発信・発表の在り方について講演されました。市民・教員ら27名が出席し、「日本でも今後活発に学術的な意見交換が行われることを期待する」等の意見が出されました。



▲アンドリュー・A・アダムス氏

ピーター・F・ドラッカー著作展示会及び生誕100年記念講演会

P. F. ドラッカー生誕100年を記念して、10月4日(月)から蔵書約130冊と、関連する本学教員の研究論文を、開架閲覧室内に展示しております。ドラッカーは、最近『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(岩崎夏海著)で話題の経営学者で、『マネジメント』の原書もありますので、是非足をお運び下さい。

また、11月9日(火)には記念講演会を開催し、市民・教職員及び学生等が参加するなか、佐藤等氏(公認会計士、本学非常勤講師)が「ドラッカーの『人生を変えた7つの経験』から学ぶ自己実現の秘訣」と題して、講演されました。



▲ドラッカー著作展示

商大の味、東京・札幌で大好評

近年、全国の大学は、独自に製作した大学ブランド商品や、研究成果から生まれた商品を販売して、それぞれ自大学のアピールに努めています。また、こういった動きに注目し、実際に商品を紹介して販売する企業イベントも見られるようになり、本学も今年をはじめ、東京と札幌のイベントに参加しました。

東京で行われた第3回小学館『大学は美味しい!』は、新宿高島屋を舞台に、6月2日から8日までの7日間、全国から集まった31の大学が自慢の味を競いました。また、地元北海道でも10月5日から7日にかけて、札幌三越が主催する『食の学園祭』が開催され、こちらの方は大学だけではなく、道内の高校や専門学校も参加してイベントを盛り上げました。

本学はいずれにおいても、日本酒「小樽緑丘」、酒饅頭「商大饅頭」、商大ラーメン「深醬油」、「久塩味」を展示販売し、とりわけイトインコーナーでも提供した商大ラーメンは、行列ができるほどの大好評をいただきました。



▲新宿高島屋



▲札幌三越



勉強とスキーが大好き 小樽は私のホームタウン

遠く西アフリカはガーナ共和国からやってきたeラーニングの専門家、イブラヒムさん。商大に赴任してまだ5カ月ほどの先生に、学内のこと、小樽の街や生活についてお話を伺ってみました。

1000分の4の確率で合格 奨学制度で来日

私は2005年、西アフリカのガーナ共和国から来日しました。もともとはシステムプログラマー、アナリストとしてガーナの首都アクラで働いていましたが、日本の文部科学省が行っている奨学制度に応募したところ、1000名中4名の合格枠に入ったので、ラッキーにも日本に来ることができました。私は、父親が弁護士、3人の兄妹たちも世界各地で研究者をしている勉強好きの家庭で育ちました。とにかく勉強が大好きなのです(笑)。

来日当初は、東京の電気通信大学でeラーニングの研究や、日本語入力などの勉強をして、2006年には修士課程を、2010年3月には博士課程を修了しました。

その後、自分はeラーニングの研究を行ってきたので、このスキルを活用して日本で仕事をしたいと思い就職先を探したところ、小樽商大でeラーニングの専門家を募集していることを知りました。私は神様に好かれています。とってもラッキー。

今年の7月から商大へ来て、学部英語の授業を担当していますが、大学で私を見かけた人は留学生だと思っているみたいです(笑)。

eラーニング、プラスアルファで 生きた英語教育を

現在、私の担当は週2日、4コマです。1年生の人数は260名、全員を4グループに分けeラーニングを使って授業を行っています。このシステムはみなさんご存じの通り、オンラインによりパソコンでアクセスすることで、自宅でも学内でも、どこで

も学習することができます。そして、誰が、いつ、どのような学習をしたか、また、何時から何時まで学習したかなど、個人の様子を詳細に把握することができます。

ですから学習の遅い学生、困っている学生の様子もわかります。ユーチューブを見て息抜きをしている学生のこともね(笑)。一人ひとりの学生になるべく個別に対応して、モチベーションを上げるようにすることも私の仕事です。

学生にとってeラーニングは、アクセスすれば夜中でも学習ができる便利なものです。しかし、言語の習得には「インタラクティブ(双方向、対話)」が大切です。eラーニングを活用しながら、どうやって学生たちとコラボレートできるかを考えているところです。LL (language laboratory) 教室を使ったスピーキングなどの実験を行う、学生のアンケートを分析するなど、よりよい学習環境の整備を検討しています。

eラーニングは便利ですが、時間の決まった授業に出席し、フェイス・ツー・フェイスで学ぶことも大切です。それを学生が感じてくれるとよいと思っています。

学生と先生はとても仲良しで 学習意欲も高い

商大の学生はみなさん頑張っているし、モチベーションが高いですね。そしてみなさん仲良し。学生と先生の関係も良好で、大学周辺の環境にも恵まれています。

私自身は、今までガーナの首都アクラと東京での暮らしを体験してきましたので、大都市しか知りませんでした。小樽のような自然あふれる環境で暮らすのは初めて



イブラヒム・ファロウク 助教

〈言語センター〉

2000年 クアムンクマ科学技術大学 卒業
2006年 電気通信大学大学院電気通信学研究科
情報通信工学専攻博士前期課程 入学
同、修了
2008年 電気通信大学大学院電気通信学研究科
人間コミュニケーション学専攻
博士後期課程 入学
2010年 同、修了
小樽商科大学言語センター助教

です。山や海があって景色がとてもきれい。そして、古い街並みや、歴史的建造物も見えて楽しめます。

食べ物ではお寿司が大好きです。小樽のお寿司は世界一おいしいと思いました。でも、何よりも楽しみなのは冬の季節で、雪とスキーが大好きです。故郷のガーナでは雪が降りませんので、雪がとてもめずらしく、東京にいた頃は長野へスキーを滑りに行くのが楽しみでした。小樽はスキー場が町から近いので気軽に行くことができ便利ですね。天狗山でのスキーもまた格別だろうと、今から期待しています。

小樽へ来てまだ5カ月ほど。授業の準備などが大変で、今までほとんど休みなく働いてきましたが、少しも苦にはなりません。商大も小樽の街も、私にとってはホームタウンであり、私の家族です。人々が優しく、よい街で働くことができ、私は本当に神様に好かれていると思っています。



INFORMATION

平成23年度 入学試験日程のお知らせ

●商学部（昼間コース・夜間主コース）

選抜区分	コース	出願期間	選抜期日	合格発表
推薦入試	夜間主	22.11.1 (月) ～11.8 (月)	22.11.20 (土)	22.12.2 (木)
社会人入試				
推薦入試	昼間	23.1.13 (木) ～1.20 (木)	センター試験と書類審査 22.2.11 (金)	23.2.4 (金)
帰国子女・中国引揚者等子女・ 私費外国人留学生入試				
専門高校・総合学科卒業生入試	昼間	23.1.24 (月) ～2.2 (水)	23.2.25 (金) ※	23.3.7 (月)
一般入試（前期日程）	昼間・夜間主			
一般入試（後期日程）	昼間			
			センター試験と書類審査	23.3.22 (火)

※東京にも試験場を設置します。

●大学院商学研究科（アントレプレナーシップ専攻・現代商学専攻）

選抜区分	出願期間	選抜期日	合格発表
アントレプレナーシップ専攻 （組織推薦・指定日入試）	22.11.16 (火) ～12.2 (木)	22.12.12 (日)	22.12.16 (木)
アントレプレナーシップ専攻	23.1.7 (金) ～1.17 (月)	23.2.6 (日)	23.2.17 (木)
現代商学専攻【博士前期課程】	22.12.21 (火) ～23.1.11 (火)	23.2.5 (土)	23.2.17 (木)
現代商学専攻【博士後期課程】		23.2.6 (日)	

学生募集要項の請求方法など
入学試験に関するお問い合わせは、次の担当までお願いします。
入試課入学試験係 TEL 0134-27-5254

E-mail nyushi@office.otaru-uc.ac.jp

■商学部入学試験に関する情報：http://www.otaru-uc.ac.jp/hnyu1/

■アントレプレナーシップ専攻に関する情報

：http://www.otaru-uc.ac.jp/master/bs/index.htm

■現代商学専攻に関する情報：http://www.otaru-uc.ac.jp/master/gs/gs.html

一日教授会 × マジ 本気プロ 2010 を開催します



市民の皆様に商大について語っていただく一日教授会を以下のとおり開催いたします。今年は、趣向を変えて本気プロ（商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト）成果報告会と合わせて行いますので、是非ご参加下さい。

■日時／12月5日（日）午後3時～6時

■場所／経済センター7階ホール
小樽市稲穂2-22-1

国際交流週間を開催

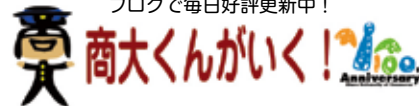
留学生と学生、教職員及び地域の方々で国際理解を深めることを目的に毎年行われている「国際交流週間」が10月25日（月）から10月30日（土）にかけて開催されました。

茶道や書道体験会、国際交流パーティー等、盛りだくさんの内容で、イベントに参加した留学生や日本人学生、小樽市民は大いに交流を深めました。



▲ハロウィンパーティーにて

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を
ブログで毎日好評更新中！



http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/

編集後記

本学校歌は「金鱗おどる渺々の…」と始まり、「金鱗」は「ぎんりん」と歌われている。ただ、これを「ぎんりん」と歌うとする説もある。鯉の鱗の色を指して「ぎんりんおどる」と歌い、豊漁の様を表したというのだろう。鯉漁で栄えた街にある高商の、創基二十周年での校歌制定という事情からも頷ける説である。（KY）

編集スタッフ 尾形弘人、山本賢司、金 鎔基、中村 史

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。下記にお寄せください。

E-mail kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX 0134-27-5213

http://www.otaru-uc.ac.jp

商大グッズ好評販売中！

▲エコバック〈5色〉各500円

▲オリジナルタオル 600円

▲酒饅頭「商大饅頭」〈1箱6個入り〉600円

▲商大ラーメン「深醤油」〈2食入り〉600円
高商ラーメン「久塩味」〈2食入り〉600円
商大ラーメン・高商ラーメン
〈各2食入りセット〉1,365円

▲キーケース 2,100円

▲コインケース 1,300円

▲牛革ボールペン 1,000円

▲シャープペンシルとボールペン 各105円

▲名刺入れ 1,575円

お買い求め、お問い合わせは小樽商科大学生活協同組合まで
(TEL 0134-23-2298 FAX 0134-25-5985)

※表示価格は全て税込です。



バックナンバーはこちら
http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/hermes

誌名の由来

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人。伝令の神、また商業、学術などの神、クーリエ(courier)とはフランス語で郵便物のことですが「～通信」として新聞紙等に用いられています。ですから「ヘルメス・クーリエ」とは「商大通信」とあるとご理解ください。